

東京芸術劇場シアターオペラvol.11
全国共同制作プロジェクト

プッチーニ／歌劇『トスカ』

《新演出》全3幕 日本語字幕付 イタリア語上演

指揮：広上淳一 演出：河瀬直美

自然と夜明けの 讃歌としての『トスカ』

国際的に高い評価を受ける

映画監督・河瀬直美が初めて手掛けるオペラは、
プッチーニの最高傑作『トスカ』。

1800年のローマでの一日の悲劇が、
古代を想起させる架空の時代を舞台にした
愛と信仰の物語として生まれ変わる。

時代や地域を超越した物語の力

劇場映画デビュー作『萌の朱雀』(97年)が、カンヌ国際映画祭で史上最年少の新人監督賞を受賞して以来、国内外で大きな注目を浴びてきた河瀬直美。静謐な映像美と自然体の演出で知られる河瀬が初めて舞台演出を手掛けるオペラは、プッチーニの名作の中でも円熟期の最高傑作と名高い『トスカ』だ。「これまでオペラ鑑賞はほとんどない」と謙遜しつつ「繰り返し演じられる『トスカ』の物語の力には、文楽に近いものがある」と語る河瀬には、既に舞台上で表すべきことが明晰に見えているようだった。

「『トスカ』がまず、何百年も前の物語であるということに興味を抱きました。作品の世界観というよりは、時代を超えて何度も繰り返し上演されている表現であるということに興味を持ったのです。日本の文楽に相当するのではないかとも思いましたし、今とは少し違う感覚で人類が生きていた時代の話だと感じました。信仰ということに関して、人間がもっと身近な感覚を抱いていた時代で、心中にしても自殺にしても、当時はもっと生きることの延長にある感覚があったのではないかと。今の感覚では語れないけれど、今の人たちに見ていただきたいので、時代や場所をはっきりと特定しないことにしました。イタリアにしてしまうとそれ以上のことが想像できない。その上で、『トスカ』の気配や空気感は壊さないようにしていこうと思っています」

信仰とは人類に普遍的なもの

歌姫トスカのキャラクターには「信心深く神の存在を疑わない女性」という抜きがたい特徴がある。これに関しても、ごく自然な演出のアイデアが浮かんだと河瀬は語る。

「人類の根源にあるのは信仰です。もっと原初的な時代には、人間は自然の脅威を目のあたりにして生きてきましたから、そういうところで信仰も自然発生的に生まれてきたし、信仰心は世界中どの国にもあったと思うんです。原始的な信仰は自然信仰であり、その時代にはシャーマンと呼ばれる人たちがいて、自然の声を聴けたのかも知れないし、それを“神の声”と呼んでいたのかも知れない。私のルーツが奄美大島なので、自然信仰のルーツが残っているのをよく見てきました。画家のカヴァラドッシはシャーマンという設定で



監字：河瀬直美

photographed by LESLIE KEE

す。彼は信仰を通してもう一つの世界があることを知っているがゆえに、みずからの運命を受け入れられる存在なんです」

トスカを手籠めにしようとする、いわゆる“悪代官”スカルピオも、河瀬にとっては100%の悪人ではないという。

「その時代に生きたその立場にある人間として、言うべきことを言い、やるべきことをやった人。そういう人間は欲望がものすごく強いから、何でも自分のものにしようとするんだけど、最後は女の手によって殺されてしまう。最大の悲劇ですよ。その悲劇に対してトスカが行う信仰の形は、すごく美しい。スカルピオを殺した後の祈りは、もしかしたら、罪は憎んでいるけど人は憎んでいない、ということなのではないかと思っています。トスカは大いなるものに抱かれる感覚をもっていた女性であり、最後はその大いなるものに抱かれて、また違う世界に旅立っていくという終わりにしたいです。自らの死という悲劇ではなく、太陽の中に別世界があり、信仰によって別の世界で生き直そうとする…そういうエンディングを考えています」

舞台美術は、NYを拠点に活躍する気鋭の建築家・重松象平氏が担当。既に多くのプランが進行しつつある。

「スカイプやラインなどでずっと打ち合わせをしています。重松さんは映画監督志望だったらしいのですが、私のほうはずっと建築家になりたかった。お互いバスケットボール部だったという共通点もあり、似た感性があるんです。重松さんが設計する三方向でそれぞれ異なった表情を見せるオブジェを置き、そこに私が作った映像を立体的な背景として使って舞台美術を完成させていく予定です」

『トスカ』は希望の物語であり、どんな暗い夜にも必ず夜明けがある…という天体現象を、希望のあるエンディングにつなげていくという。イタリアオペラというジャンルを超えた、大きな愛の物語を目撃することになりそうだ。

取材・文：小田島久恵(音楽ライター)

10月27日(金) 18:30開演・29日(日) 14:00開演
コンサートホール

詳細はHPへ

指揮：広上淳一 演出：河瀬直美
管弦楽：東京フィルハーモニー交響楽団
合唱：東邦音楽大学合唱団
児童合唱：TOKYO FM 少年合唱団



広上淳一



ルイザ・アドレイトヴァ

出演：トス香(トスカ)：ルイザ・アルブレイトヴァ／
カバラ導師・万里生(カヴァラドッシ)：アレクサンドル・パディア／
須賀ルビオ(スカルピオ)：三戸大久／
アンジェロツ太(アンジェロッティ)：森雅史／
堂森(堂守)：三浦克次／スポレット太(スポレッタ)：与儀巧／
シャル郎(シャルローネ)：高橋洋介／看守：原田勇雅／牧童：鳥木雅生



アレクサンドル・パディア

料金：S席10,000円 A席8,000円 B席6,000円 C席4,000円
D席3,000円 E席1,500円 SS席12,000円